

ISEC Hawaiian Club News

平成20年 秋号 10 - 12月

ご挨拶

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。会員各位におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？ 本年前半は当団体創立21年目をお陰様で順調に過ごさせていただいています。会員の皆様におかれましては、それぞれの開催毎に多大にご支援、ご参加賜り誠にありがとうございます。

当団体は新たに25周年を目指して更に充実した各種システムとプログラムを常に考察し、更に大きく羽ばたいて行きたいと考え、一步、一步前進しようと種々検討している昨今であります。

会報夏号に関して、本年前半の各行事の遂行を誠に恐縮ではありましたが優先させていただいた為お待ちください

ていた会員各位には多大にご迷惑をお掛けして誠に申し訳ありませんでした。

前述のように、皆様方のご理解、ご支援、ご協力のもとに当団体の集大成と次なる25周年に向けての枠組みを固めるべく鋭意検討中ですが、今回は連続出来るプログラムではございませんが、当団体にとっては大変意義ある発表をさせていただくことがありますので発表させていただきます

今後とも、ハワイアンクラブ会員各位の方々のお役に立つよう運営を期していきたいと考えていますのでどうか更なる暖かいご後援の程、よろしく願いいたします。

< 報告 >

1 > 7月東京開催「ハワイアンカルチャー・アカデミー-in Tokyo」を実施しました。

昨年に引き続き、ハワイのクムを招聘して(本年は2名)実施致しました。ご参加頂いたフラを学ぶ方々は丁度昨年とほぼ同数の方にご参加頂いて活況の内に終了致しました。ご参加者は、北海道から沖縄まで文字通り全国からご参加頂いて感謝、感激でした。

ハワイで開催しなくても少しでも単なるワークショップで終わらずに当団体らしい内容を種々検討し、本年もフセボ先生に曲の訳詞を講義して頂きました。昨年同様感じた事ですが本当にお集まりの方々が踊りのみならずこの講義に対する意欲とその受講態度の真剣さに只々感心するばかりでした。

只、事前のお問い合わせに本年も多くありましたのが「曲名を事前に知りたい」というお問い合わせでした。お問い合わせの様子ではフラの経験年数の長い方々も多くいらっしゃいました。きっとあの曲はもう既に知っているの、この曲は知らないの・・・。」というお考えなのでしょうと思いました。そしてそのことが日本のフラ界の現状を如実に知らせているとも同時に思いました。私達のコンセプトの一端は一定以上フラを学んでいる方々にダンスをコピーする事が目的ではなく、各自の表現力の引き出しを多く作り、個人個人のフラの向上を願うためにハワイでも、日本でも実施しています。

即ち同じ曲であっても違うクムが教えるのはどのような振り付けで教えるのか？自分の知っている同じ曲の振り付けとどう

違うのか？その差異は曲の詩を表現する上でそれぞれどのような効果をもたらす意図で構成されているのか？を考察するためには一番の体で比較できる良い機会でありその結果、私ならばここはこう踊るのだけど・・・。」と言う自分自身の訓練となりその方のフラが現実的に向上する好機となると考えるのが一般社会では普通なのではないでしょうか？

時々開催される合同で行われるフラの発表会を見ると、最後の方で各フラ教室の先生同士が同じ曲を踊る所を見受けます。ほとんどが違う振り付けで踊っていらっしゃいます。これを見れば同じ曲を全員が同じ振り付けで踊らなければいけない訳ではない事は一目瞭然です。

ならば、自分だけの視点で知らない曲だけしか興味がわかないという考え方がまかり通る考え方はフラに関する向上心として考えてみればかなり窮屈な考え方ではないでしょうか？ もっと視点を広く考えればもっともっと向上するのにと考え、少し悲しい気持ちを禁じ得ませんでした。併せてこのような筆者の考え方はドンキホーテのように多勢に無勢の現状をまざまざと見せつけられた思いです。

しかし、まずは楽しくなければフラじゃない!!!楽しんでご参加頂いた皆様大変有り難うございました。

2 > 9月開催「師範者クラス」、「リラーニング・クラス」、「初心者、初級者クラス」をハワイ大学で好評裏のうちに開催しました。

< ビデオを活用して大成功のリラーニング・クラス >

「リラーニング・クラス」のプログラムも、早くも第4回の実施を好評裏のうちに開催しました。参加者の人数も尻上がりが増え、今回が最大の参加者となりました。大変このクラスに対する認識も定着しつつあるのか？と心密かに感謝しつつ、嬉しい思いをさせて頂きました。日本で学び、又は教えていらっしゃるフラの愛好者の

方々の向上について常に考え、その幾つかの課題を抽出して具体的にプログラムにし、それに相応しいクムをお願いし、催行してきましたが若くしてクムになった異能の持ち主クム マリア ヘレラは流石にのみ込みが良く、参加者がホントに役に立ったと言う感想をいただき改めて恐縮しています。何故かというハワイには「リ

ラーニング」と言う改まった考えの、通常のレッスン以外の独立したものはありません。(勿論日本にもないのですが、そこはアカデミーという特性を生かして・・・) 全て自己努力か、師にアドバイスを貰うかのいずれかです。従ってハワイのクム達に取っては主旨を飲み込む事が大変に難しい上、まして個別の生徒に「あそこを注意しろ！ここをもう一度考察してみなさい！」という教え方はアメリカ式ですから発想にないのです。

若いマリアは考え方が柔軟性に富み、その意を担当わずか2回目の「リラーニングクラス」の意図を完全に飲み込んだようです。そして特筆すべきはビデオを活用した事でした。彼女の通訳を介してのアドバイスの真意と意図を映像を見ながら参加者は聞くので一目瞭然です。又副次的に彼女はこれも教えておいた方がよい、あれも教えておいた方がよいとその現場でひらめいた指導が適切に反

映した授業を生みだし、参加者にとってより具体的な指導を受ける事が出来るようになり、分かりやすくご自分の財産としてその成果を日本に持ち帰って頂いたようで優しいようでむしろ「リラーニング・クラス」の教え方の方向性が真の意味で位置づけられた今回でした。

春号でお読み頂いた 他の人に自分のフラについて聞く事が出来ない立場になってしまっている方 「ご自分のフラがある時点で伸び悩んでいるけれど・・・。」とお考えの方 指導者の方で、「ご自分のフラ・基礎教育指導を今一度、確認してみたい。」とお考えの方等々にとって有益なクラスと自負しています・・・という主旨が根付いた9月編でした。

3 > 9月開催「初心者クラス」をハワイ大学で全員ノリノリで終了しました。

< 永らく続けた「初心者クラス」を本年11月から当分の間お休みと致します。 >

わずか3日間のレッスンでしたが、陽気な方が多かったのか、本当に楽しんで頂きました。このクラスが一番の主旨はハワイアン・フラの楽しさを十分に感じて頂いて、そのモチベーションを日本におみやげとして持って帰っていただくことにあります。

クム・エイプリルは、「最初の日には固くなっていて少し心配していたが時が経つに連れて明るいクラスになって本当に良かった。」と話していました。最終日の夜にはクムもいつものカラオケで地元のお客さん達と合同で(これもいつもの通りなのですが)大騒ぎして帰国したようです。ハッピー～～～!

閑話休題、この初心者クラスの開催を11月から当分の間

お休みと致します。と言いますのはこのクラスの開催主旨が果たして当団体が担うべき主旨で開催しているかという事です。

前述したように、ハワイアン・フラの楽しさを十分に感じて日本に帰って、益々フラが好きになって頂ける事が大きな眼目です。このことは、当団体アイセックジャパンの「ハワイアン・カルチャー・アカデミー」でなくても旅行社の主催でも、その他どの企業・団体でもやっている事でことさら当団体がこれ以上続ける必然性があるのかどうかと言う事です。とりあえず11月以降に関しては十分に内部で議論して結論が出るまでお休みにする事になりました。

4 > 9月開催「師範者クラス」

< とりわけみっちり学習したカヒコ、アウアナの創作フラ >

一年に一度の「師範者クラス」好評に添えてクム・カオフは、カヒコ、アウアナの創作フラを指導しました。「自分のハラウでもこんなにみっちり教えた事がない」と言いながら参加者一人一人に的確なアドバイス、カヒコとアウアナの違い等を時間をかけて指導していました。実践で学習できた事は大変大きな事だと感じました。

その間にハイアウに見学に行ったり(今回は死ぬ程歩かされました)その地のハワイアン・カルチャーと神話、伝説を教えたりと習う方も大変な1週間30時間でしたが教えるクムもさぞ大変だったでしょう。

又一人一人が考え抜いて創作したフラは最終日のホイケでは各人が独創的で感動的でした。勿論受講生お一人、お一人が自分で考えたとはいえ長いようで短時間の間の創作をフラにするので完全に自分のものとしてではなく、未だ身に付かず途中で立ち往生する方もいらっしゃったのですがその光景さえも感動的でした。そしてその立ち往生の苦しみも含めて必ずや日本で冷静に振り返

て見れば良き経験となりそれがご本人にとって文字通り血肉になるに違いないからです。

あえてこの会報でお話しするならば最終日の前日クム・カオフは「創作フラをホイケで踊る時全員でそれぞれが創作したフラを踊るか? それとも一人ずつ前にでて創作したフラを発表するか?」と聞きました。筆者はもともと辛口人間ですからお一人お一人に踊って頂きましょう。きつい事を避けては向上はあり得ませんので」と申し上げた所、お一人も反論されずにそれぞれが創作したフラを踊る事になった経緯がありました。

ですから誰も笑わない、むしろ「頑張って下さい。此処が貴方様にとって大きな勝負所、此処を経験して日本で大きく指導者として更に羽ばたいて下さい!」皆がそう思ったに違いありません。

それらを踏まえての最終日のホイケでした。改めてご参加者全員の前向きの姿勢と学習意欲に敬意を払う次第です。

< 「ISEC ハワイアン・クラブ」からのお知らせ各種 >

< 5 > 会員システムの変更のお知らせ!

平成20年4月より、会員システムが変更になりました。詳細はホームページをご覧ください。

< 6 > ご利用下さい! 当団体ホームページに掲示板を設置しています。

「ハワイ大好き!」 「フラ大好き!」 「ハワイ音楽(楽器)大好き!」

未だご利用者が余り多くないのですが、会員以外の方で質問のある方もいらっしゃいます。是非教えてあげてください。又たのしくご利用ください。

< 7 > フラの愛好家にとって大きな朗報です！「ハワイアン・ネーム」&「ハラウ・ネーム」が授与される

「ハワイアンカルチャー・アカデミー」にこれまでご参加頂いた方が対象です。詳細資料をご請求下さい。
注・資料請求は、電話、FAXのみとなります。

< 8 > ハワイで催行する「ハワイアンカルチャー・アカデミー」が11月開催で只今好評受付中です。

ハワイでなければ学べない！ フラ・オープン カレッジ

集中講座！

「ハワイアンカルチャー・アカデミー」

< 2008年11月の・日程予定は、ホームページに表記されています。 >

1 > Hawaiian Culture Academy – Intermediate Class (中、上級者・クラス)

概要) 日本でフラを学んで2, 3年以上ベテランの方迄、ハワイアンの聖地で踊り、ウリウリを自ら作り、そのウリウリでカヒコ・他を踊るクラスです。

2 > Hawaiian Culture Academy – Hula Implement Class (楽器と踊り・クラス)

概要) 日本でフラを学んで2, 3年以上からベテランの方迄、イブ、イリイリ、プイリの使用法を学び、各楽器でアウアナ・カヒコを踊るクラスです。

3 > Hawaiian Culture Academy - Advanced Class (アドバンス・クラス)

概要) オリを知り、学び詠唱する。カヒコを知り、踊る。アウアナを改めて学ぶ。アプアア(古代共同集団生活の場・地)を知り、ラカ神を学ぶ

4 > Hawaiian Culture Academy - Oli & Kahiko Class

概要) ハワイアンフラ本流のクムから学ぶ、クムリが第2部が始まります！
フラを学ぶ人たちに重要な聖地で踊りを捧げ、オリとカヒコ、アウアナを学ぶ。

< 9 > 4月1日より当団体の会員システムが変更になりました。

今後尚一層の会員各位への便宜をはかる為、(1)電子化、(2)年会員制度から年度会員制度へ移行することになりました。

< 10 > 4月5日より、ハワイアンクラブの会員専用ページが、ホームページにできました。
会員活動の全てはそのホームページ上でご案内しています。

ホームページのトップページに会員専用のページを作りました。会員専用入口からお入り下さい。今回の「会報(秋)号」,
「2008年ご利用の手引き」、「書籍販売」、「会員各位へのお知らせ」等々をご覧になれます。ホームページの閲覧の出来ない
会員の方にのみFAXで送信しています。

ハワイアンクラブ会員専用

